

漁況予報 いわし

第 1 2 9 号

2005年 5～6 月漁期
(2005年5月12日発行)

＝ 概 況 ＝

【まいわし】

主要定置網における3月のマイワシ総漁獲量は、5トンで前年同期の11トンを下回る漁獲量となりました。4月に入っても低調な状況が続き、総漁獲量も2トン程度に留まりました。

各定置網とも、中羽マイワシ(17～18cm)主体に小羽・大羽マイワシが少し混じる魚種組成となりました。

佐島地区のまき網は、まとまった来遊がなかったことから、2ヶ月を通して漁獲はありませんでした。

このように依然として厳しいマイワシ漁ですが、3月のシラス漁で3割程度マシラスが混じっていますので、今後ヒラゴとして定置網に入網する可能性があります。

【かたくちいわし】

主要定置網における3月のカタクチイワシ総水揚げ量は、530トンで昨年同期(760トン)を下回りましたが、高水準の水揚げ量となりました。4月も引き続き好漁を維持し、鎌倉・腰越地区を中心に、計770トン記録しました。(速報値)

佐島地区のまき網は、断続的に餌イワシとして漁獲しました。

魚体は2ヶ月とも11～13cm台の小型～大型成魚が主体でしたが、肥満型の個体(10～11cm台)が例年になく多く見られました。

【しらす】

3月11日に解禁した相模湾のシラス漁ですが、今年は解禁直後から湾東部を中心に好漁スタートとなりました。

例年ですと、相模湾のシラスは、平塚を中心とした湾奥部の方が湾東部に比べて来遊量が多いのですが、今年は逆で、三浦半島側の湾東部にシラスの来遊が偏り、東高西低の漁模様となりました。

その結果、標本船3統のデータを基に、県全体では予測どおりの漁獲量となったのですが、湾東部に限ると1990年以降で、3・4月とも2番目に多い漁獲量となりました。

魚種組成は、3月がカタクチシラス7割・マシラス3割、4月はカタクチシラスが殆どを占めました。

引き続き、黒潮は6月まで蛇行傾向を維持しますし、成熟の進んだカタクチイワシ成魚も相変わらず本県沿岸海域に多く来遊していますので、このまま好漁傾向が続くことが期待されます。

ただし、今後水温上昇とともに、あまりに多くのカタクチイワシ成魚がシラス漁場の中にまで来遊することになると、漁模様は悪化する可能性がありますので、成魚の動向を注視する必要があるでしょう。

＝ 予 報 ＝

まいわし

今漁期は、中羽イワシ主体にヒラゴ(0歳魚)が若干混じるでしょう。

今漁期の水揚げ量は、定置網を主体に約40トンと予測されます。

なお、利島周辺の大羽マイワシが、産卵後の索餌回遊で本県沿岸に来遊することがあれば、まき網でも漁獲があるでしょう。

*縦軸：主要定置網+まき網の水揚げ量

かたくちいわし

今漁期は、小型成魚及び大型成魚が漁獲の主体となります。

今漁期の漁獲量は、約1345トンと予測されます。

しらす

今漁期は、4～5月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

伊豆諸島北部海域にもシラスが多数存在しているようですので、引き続き加入が期待できます。

今漁期の漁獲量は、約145トンと予測されます。

一方、カタクチイワシ成魚も多く相模湾内に滞留しており、これらがシラス漁場に頻繁に来遊すると、予測値を大きく下回ることも考えられます。

過去5年の5・6月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

